

洛東の丘

～校長室から 洛東生の皆さんへ～

令和3年1月8日(金)第28号

今週の四字熟語

破顔一笑(ハガンイッショウ)

顔をほころばせて、にこやかに笑うこと

☆しなやかに☆

皆さん、あけましておめでとうございます。まず、3学期を無事に迎えることができたことを皆さんとともに喜びたいと思います。

年が明けても全国的に新型コロナウイルス感染拡大の勢いは衰えず、首都圏では「緊急事態宣言」が発出されました。これは感染者数の増加に伴い、医療体制がこのままでは崩壊する恐れがあるということが主な理由とされています。特に飲食を伴う場面での感染リスクが高く、京都においても関連業界に営業時間の短縮などが求められているほか、医療体制のひっ迫も例外ではありません。今後、京都にも緊急事態宣言が発出される可能性もあります。皆さんやご家族の感染を防ぐことはもちろんのこと、医療体制を崩壊させないように我々一人一人が気をつけて生活しなければなりません。そういった観点と、GoToトラベル事業停止が延長となったことなどから、1月中旬に予定していた2年生の研修旅行を中止としました。皆さんにとって研修旅行は、高校生活におけるかけがえのない思い出となることを承知しているだけに苦渋の決断でした。2年生には2学期の終業式に伝えたとおり、コロナ禍の状況をにらみながら、少しでも皆さんの思い出となるような代替りの行事を考えたいと思っています。

3年生の皆さん、高校生活もいよいよラストスパートです。立つ鳥跡を濁さずと言います。これまでの頑張りが増しを輝かすのも、一瞬のうちに消え去るのも、すべて皆さんの心がけ次第です。卒業式に向け、後輩にしっかりと背中を見せられる存在としてやりきってほしいと思います。

1年生の皆さん、高校生となって間もなく1年が経ちます。不安ながらも期待に胸を膨らませて始まった高校生活が、新型コロナウイルスのために大変残念な滑り出しとなりました。しかし、我々は入学当初の初々しい皆さんの姿や、休校明けに早い時間から頑張ってくれて登校してくれる皆さんを、心から応援していました。その気持ちは今も変わりません。今一度、初心に戻り、3学期が2年生に向けての助走期間となるよう、気持ちを引き締めて高校生活に取り組みしましょう。

ところで、世界中に惨禍が広がった新型コロナウイルスですが、未だ終息へのはっきりとした道すじが見えません。見えない敵におびえ、見えない明日に戸惑う現状は、まさに「終わりのない戦い」と言えます。感染した人や陽性者、または医療従事者の方々への差別や偏見、各業種での経営不振、或いは、政治への不信感から募る国民の不安や疑心暗鬼など、コロナによる混乱は枚挙にいとまがありません。

コロナの波が落ち着いても元通りの生活に戻ることはない と、ある専門家は言います。それは、これまでの常識であったことが通用しなくなったり、これまでの成功例が役立たずになったり、これまでの楽しみ方を変えざるを得なかったりするということでしょう。私たちはこういった状況を受け入れたうえで、強く生きなければなりません。コロナに負けるわけにはいかないのです。しかし、この「強く生きる」ということを間違えてはいけないと思います。日本人は元来「こうと決めたらどこまでも」とか「誰が何と言おうと曲げない根性」や「たとえ火の中 水の中」と言った「強さ」を好むところが少なからずあります。確かに事を成し遂げるにはそういった姿勢が必要であることを否定はしません。しかし、コロナ禍において求められる「強さ」とは、「しなやかさ」であると思います。「東がダメなら西へ」「直進が無理なら遠回り」「流れが変わればしばらく身を任せる」「できないことは少し形を変えて」など、一見「優柔不断」ともとれる行動が求められる機会が増えると思います。つまり、時には「素早く軌道修正」する。時には「方向転換」する。また場合によっては「一旦退散」する、など柔軟に頭を切り替え、それでいて「真の目標は見失わない」と言った臨機応変な姿勢を併せ持つことが肝要です。それは変化に対応する「しなやかな強さ」と言うことです。

コロナ禍は全世界に襲来した逆境です。ピンチをチャンスに変える ということは容易いことではありません。しかし、この「しなやかさ」こそ、今求められる「真の強さ」であり、大切な感覚となると考えます。皆さんには是非、「変化に自在に対応するしなやかな強さ」を獲得するための挑戦を始めてほしいと思います。